

創造力を兼ね備えたリーダー

本書は、グローバル化を粛々と構築しようとする企業のよりよい発展の一助となればという思いから書き下した内容である。

目次

第I部 リーダー像(創造力を兼ね備えたリーダー・グローバル人材として)
第2部 人材教育(発想の転換による人材育成)

序章

BRICS諸国の台頭によって、日本の製造業を取り囲む競争環境はより厳しさを増している。にも拘わらず、日本の製造業を支える基盤は弱体化の様相を呈している。少子高齢化、技能者の減少、理工系志望学生の減少などに象徴されるものづくりへの関心の低下など基盤としては不利な状況になりつつある。

このような客観的状況とは別に、多くの製造業にとって今まで依存してきた先進国の市場が成熟化し、利益は上がらず、しかも製品寿命が短命化し、右肩上がりの需要動向ではなく、殆どの製品系列において短いサイクルでの景気の上昇、下降を繰り返す経営にとっては負荷となる状況になっている。

このような状況において、ブルー・オーシャン戦略なるものが多大な注目を集めるのも無理はない(注1)。より苦勞が少なく、収益性のよい市場を開発することは多くの企業にとっては垂涎の方向である。

目を製造企業経営に転ずると、人員も削られた過酷な操業環境において、新製品開発から現業活動までQ、C、Dを高めるプレッシャーと共に、時間との争いに明け暮れる状態になっている。そこで大きな成果が上がっているかといえば、必ずしもそうではない。この1、2年は中国経済などが牽引することで需要が上がっているため問題が隠されているが、その先について安心している企業は少ない。東北関東大震災の影響だけでなく、その以前からすでに設備投資のダウンなど景気後退の兆しも見え始めていた。

現在の日本の製造企業に求められていることは、価値創造力の強化である。より高い評価を市場で受け、しかもその価値が長続きする製品をいかに生み出し、作り続けることができるかということである。疲弊的な操業環境から脱しないかぎり、現在のものづくりは衰退の一途を辿る危険性をはらんでいる。

こうした現実直面する中で、M&Aを繰り返しながら企業規模をより大きくすることだけに執拗に力を注ぐだけでなく、いい製品を世に送り出すことによる企業価値を高め、その結果として企業品位の賞賛を得るような経営に今一度挑戦してはどうだろうか。

本書の主旨と構成

本書は、筆者が長年コンサルティングビジネスを営む中で、直接係ってきた製品開発現場における疲弊を何とか解決し、今一度、世界にかんたる日本の製品を送り出すことを願いにまとめた一冊である。

本書は、第1部で製品開発の原点となるリーダー像を明確にしたうえで、第2部でそのリーダーの育成方法、そして第3部で育成されたリーダーの製品開発における実践を経験できるように構成した。

したがって、第1部、第2部は会話を通して理解できるに工夫し、第3部は実際の製品開発を体験できるように開発現場で起きている状況をリアルに描いて表現し、第4部では第1部から第3部の集大成として、戦略的フロントエンド・ローディングの構築をまとめている。